

屋久島の気候

屋久島にはひと月に 35 日間雨が降るというよく知られたことわざがあります。その地形と黒潮の影響で、この島には日本で最も多い降雨量があり、青々とした森、ほとぼしる川、また勢いよく落ちる滝などを生み出しています。

日本で最も雨の多い場所

高い山々が屋久島の内陸部に大雨をもたらします。この島はフィリピンから温かい水を北に向かって日本まで運んでくる黒潮の通り道に位置しています。海から立ち上る温かい水蒸気が、中には 1,800 メートルを超えるものもある屋久島の峰々に接触します。その水蒸気は上昇を続けるにつれ凝結して冷え、雲を形成し、雨を降らせます。2017 年には、沿岸の町である永田が 1,377 ミリメートルの平均年間降水量を記録したのに対し、中央部の小杉谷および宮之浦岳ではその倍を超える平均 5,693 および 6,960 ミリメートルの雨量をそれぞれ記録しました。

屋久島東部の降水量は、南東からこの島の上を通過する温暖な低気圧前線や台風のため、南部や西部に比べて多くなります。屋久島は太平洋上で七月から十月にかけて最も頻繁に発生する台風の進路の転向点に位置しています。屋久島の年間雨量の約半分は、東アジアの雨期である五月から八月の間に降ります。

白谷雲水峡

白谷雲水峡渓谷では、豊富な雨と高い湿度により、多くの種類のコケが生育しています。ハイキングコースが霞の立ち込める苔むした原生林を横断しており、スタジオジブリのアニメ映画 *もののけ姫* の風景はこの森に着想を得たと言われています。日本の約 1,700 種のコケのうち、約 690 種が屋久島の湿った気候の中で繁茂しています。雨が降ると、雨水を蓄えるコケは新たな活力を得、さまざまな緑の色合いの光景を生み出します。ピートモスは自身の重量の 16 から 26 倍の水分を吸収する細胞を持っており、乾燥しすぎると白くなります。高地で見られるハイヒモゴケ科のコケは長く、木の枝からカーテンのように垂れ下がります。白谷川は、澄んだ山の水をその渓谷に供給しています。

行き方：車で安房港から約 45 分、宮之浦港から約 22 分、または屋久島空港から約 32 分

大川の滝

大川の滝は、88 メートルを落下する屋久島で最も大きい滝です。大雨の後には、その滝の流れはさらにダイナミックになります。近くの大川湧水の飲み水は健康に良いと言われています。

行き方：車で安房港から約 53 分、宮之浦港から約 68 分、または屋久島空港から約 62 分

水力発電

屋久島の豊富な水源は発電に利用されています。民間企業である屋久島電工は三基の水力発電所を運営しており、同じく民間の九州電力が一基を所有しています。この島で消費される電力のほとんどは水力発電で賄われており、屋久島電工が所有する火力発電所は、非常時と水力発電所のメンテナンス時にのみ使用されています。

亜熱帯から寒冷気候まで

屋久島の変化に富んだ地形は、沿岸の亜熱帯から山間部の亜寒帯まで、さまざまな気候を生み出しています。海岸部は冬でも温暖ですが、標高 2,000m 前後の奥岳山岳地帯は年間を通して寒冷で、三から六メートルの雪が積めることもあります。異なる標高にそれぞれ異なった植物が生育しており、この島の生態系の中には合計で約 1,900 種の植物が見つかります。同じ冬の日、山には雪が積もり、海岸付近ではハイビスカスの花が咲いているかもしれません。